

新ごみ焼却場整備事業について

(下北地域新ごみ処理施設)

下北地域広域行政事務組合

ごみ焼却場の現状

概 要

名 称 アックス・グリーン

所在地 むつ市大字奥内字今泉68

竣工年月 平成15年3月

施設面積 23,400m²

施設規模 140t／日(70t／日×2炉)

搬入量 27,543t

溶融量 25,533t

資源化 2,010t

主な資源化 カン類、ビン類、ペットボトル
(平成29年 アックス・グリーン 年報)



ごみ焼却場の課題①

- * 維持管理費による課題
 - LPガスの購入料金の増大
 - 電気料金の増大

ごみ焼却場の課題②

* 老朽化による課題

- 故障による炉の停止
- 耐用年数間近の大規模修理



現在のごみ焼却場の跡地利用

- * 現在の焼却場の跡地は、ごみ焼却場を解体し、この次の新ごみ焼却場の敷地とし、建設までのあいだは、リサイクル品(カン類、ビン類、ペットボトル等)の引取等の車の待機場所や重機等の置き場として利用・活用する。

新ごみ焼却場の概要

① 経緯

平成26年度	下北地域一般廃棄物処理基本構想
平成27年度	下北地域一般廃棄物処理基本計画
平成29年度	新ごみ処理施設整備基本計画
平成29年度	生活環境影響調査
平成30年度	新ごみ処理施設整備基本設計
平成30年度	新ごみ処理施設整備事業者選定

新ごみ焼却場の概要

②基本方針

- 地球に優しい施設
- 安全性に優れた施設
- 資源や熱エネルギーを効率的に有効活用できる施設
- 周辺環境と調和した施設
- 住民に開かれた施設
- 維持管理が容易で経済性に優れた施設



下北地域の新しいごみ焼却場として循環型社会の形成の推進を目指す

新ごみ焼却場の概要

③ 建設予定地

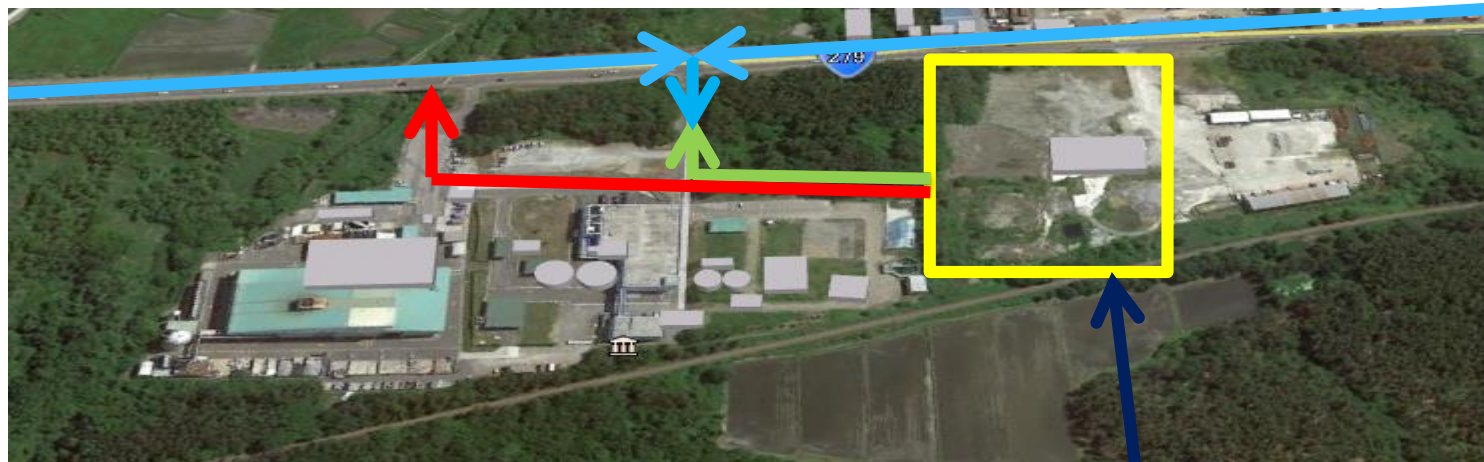





現在の焼却場

整備予定地

新ごみ焼却場の概要

③ 建設予定地



-  :むつ方向への車
-  :野辺地方向への車
-  :ごみ処理施設への車

ごみ処理施設整備
予定地

新ごみ焼却場の概要

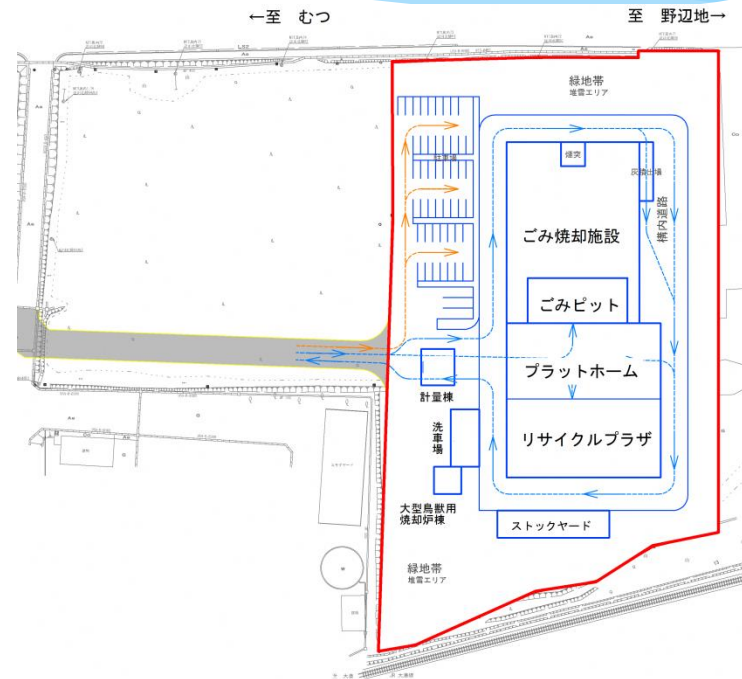
④新ごみ焼却場の概要

- 施設名称 アックス グリーン
- 施設面積 約 19,700m²
- 施設規模 90t/日 (45t/日 × 2炉)
 - 現在のごみ焼却場 (140t/日) の約65%
- リサイクルプラザ処理能力 14t/日
 - 現在のリサイクルプラザ (26t/日) の約54%

新ごみ焼却場の概要

⑤施設内容

- 計量棟
- ごみ焼却施設
- ごみピット
- リサイクルプラザ
- スtockヤード
- 灰積出場
- 大型鳥獣用焼却炉



※上記 図面は配置予想図であり、実際には変更の可能性があります

新ごみ焼却場の概要

⑥効果

- ・適正な維持管理費や整備を容易に実施できる施設とともに、維持管理費等の事業コストの低減を図る施設
- ・最新のごみ処理技術を導入し、施設周辺の住民が安心して生活できる安全な施設とする。
- ・ごみの発生抑制、再使用、再利用(3R)を啓発・推進するとともに、ごみを焼却したときに発生する熱で蒸気を発生させ熱供給や発電に有効利用を図る施設とする。

新ごみ焼却場の概要

⑦さらなる効果

- ごみ処理や「3R」、熱エネルギーの回収とを通じ、環境への関心と理解が深められるような住民等の施設見学や環境学習に役立つ施設
- 最新のごみ処理技術により、温室効果ガスの発生を抑制し、低炭素社会に資する地球に優しい施設

新ごみ焼却場の概要

⑧生活環境影響調査

新ごみ焼却場の建設のため、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)第8条第3項により、生活環境影響調査をH29, 30の2ヶ年行った。

調査結果

- 1) 大気質については、環境基本法及びダイオキシン類対策特別措置法に基づき周辺の4箇所にて現況調査を、建設予定地にて煙突場所を仮定し予測調査を行った
測定した結果... 二酸化硫黄、窒素酸化物、塩化水素、水銀、ダイオキシン等については、現況調査では環境基準値を下回り、予測調査では最大着地濃度が環境保全目標を下回っており将来的にも環境保全目標を上回る可能性は、低いと予測される。

新ごみ焼却場の概要

⑧生活環境影響調査

- 2) 騒音については、騒音に係る環境基準及び騒音規制法に基づき周辺の2箇所にて現況調査を、建設予定地にて一般国道279号沿い2箇所、海側1箇所にて予測調査を行った。

測定した結果... 現況調査では、周辺の騒音レベルは高めの値であった。原因は、一般国道279号を走行する車両台数が多いことであると考えられる。予測調査では、騒音レベルは、環境保全目標(昼間:72dB)を下回っており、廃棄物運搬車両の台数は、現在のごみ焼却場に搬入する台数と同等もしくはそれ以下になることから、将来的に道路沿道の騒音レベルを増加させる可能性は低いと予測される。

新ごみ焼却場の概要

⑧生活環境影響調査

- 3) 振動については、振動規制法及び青森県公害防止条例に基づき周辺の2箇所にて現況調査を、建設予定地にて一般国道279号沿い2箇所、海側1箇所で予測調査を行った。

測定した結果... 現況調査では、人間が振動を感じ始めるとされる振動(55dB)より低い値であった。
予測調査でも、現況調査と同じく低い値となった。
将来的にも振動を大きくするような可能性は低いと予測される。

新ごみ焼却場の概要

⑧生活環境影響調査

- 4) 悪臭については、悪臭防止法に基づき周辺の3箇所にて現況調査を、
現況調査と同じ場所にて予測調査を行った。

測定した結果... 現況調査では、周辺の悪臭レベルは規制基準値を
下回った。予測調査でも、現況調査と同じく低い値
となった。

将来的にも、悪臭の原因であるごみピット(焼却場
内にあるごみの集積場所)の臭気を含む空気を燃
焼へ供給するなどにより今まで以上に悪臭レベルの
低減が図れるものと予測される。

新ごみ焼却場の概要

⑨ スケジュール

